

会田安明肖像画(山形大学附属博物館蔵)



最上流和算家の祖 会田安明展

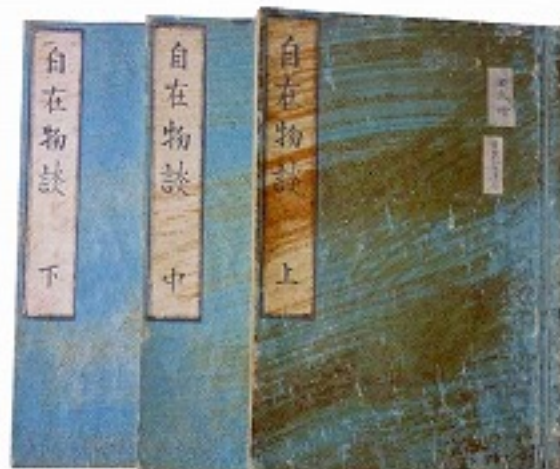
初めて徳内伝を書いた人物



会田安明は江戸時代の和算家(数学者)で、最上流(数学の一派)を編み出し、当時の算学界で話題となりました。

天明2・3年(1782・1783)頃、最上徳内と出会い、後に安明は徳内の人物伝を『自在漫録』に著しました。

本企画展ではその一部分や、県内に残る安明の遺品や和算書、また徳内の和算家としての一面も紹介します。

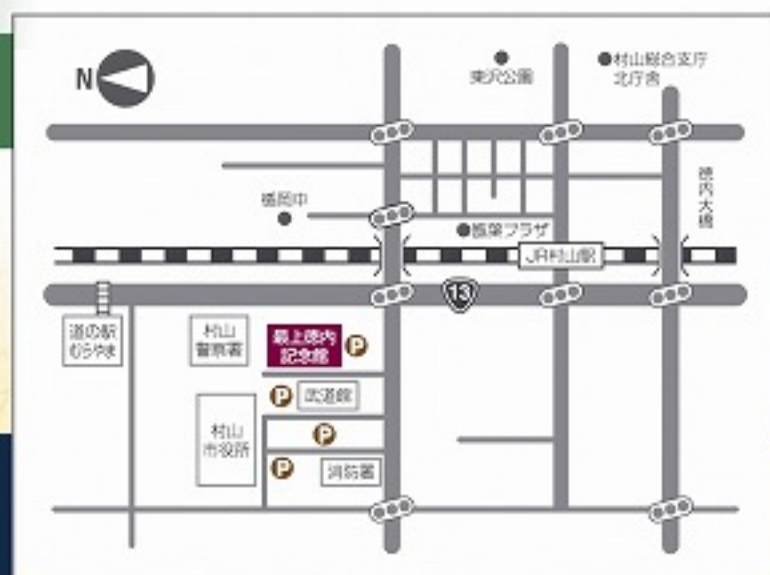


会田安明著『自在物談』(個人蔵)

会田安明の遺品・自筆の和算書や 最上徳内との関わりを紹介します

平成30年

6月15日金 ▶ 7月24日火



■ 開館時間 / AM9:00~PM5:00 (入館はPM4:30まで) ■ 休館日 / 水曜日(休日の場合は翌日)・年末年始

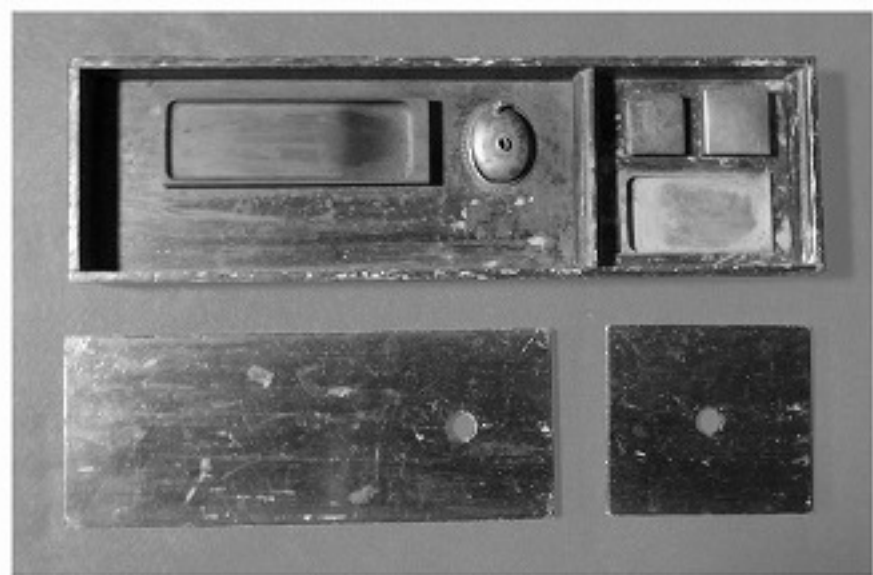
■ 入館料 / 大人300円 小・中学生150円 団体(15名以上)大人250円 小・中学生100円

〒995-0035 山形県村山市中央一丁目2番12号 TEL.0237-55-3003 FAX.0237-55-3630 E-mail tokunai@city.murayama.lg.jp

会田安明と和算

会田安明は、山形市に生まれ、16歳のとき山形市で岡崎安之に算術を学びました。23歳で江戸に出て、幕府の役人になりましたが辞職し、和算家(数学者)を志しました。

江戸時代の和算は関孝和を祖とする「関流」が全国に浸透していました。その「関流」に対し、安明は自分で考えた「最上流」を旗揚げし、和算での対立が始まり20年に及ぶ論争は有名です。このことが江戸時代の和算の発展に大いに尽くしたと言われています。



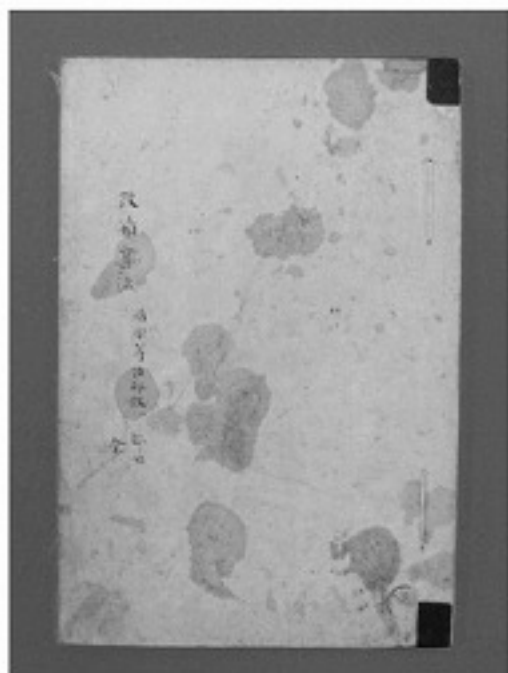
会田安明が使用していた「硯」(個人蔵)



最上徳内と会田安明

最上徳内との出会いは、徳内が蝦夷地探検前の天明2・3年(1782・1783)頃です。安明は、和算・天文・測量に詳しい経世家(政治経済論者)の本多利明に、徳内を紹介したとも言われています。徳内と算学修行に出かけ途中で病気になった永井正峰も同じ利明の門人でした。徳内は安明と正峰の二人から推薦され、利明の音羽塾に通うようになりました。

安明は、同郷の先輩として、良き友人、理解者として徳内をあたたく迎え入れ、安明61歳の時の随筆「自在漫録」の中に「徳内常矩の事」を記し、徳内の略歴を書き残しました。これは青年期から蝦夷地探検までの徳内像がわかる貴重な一級資料とされています。



「改精算法」(山形大学附属図書館蔵)

展示内容

会田安明 著作

- 「自在漫録」
- 「自在物談」
- 「改精算法」
- 「算法古今通覧」

…その他

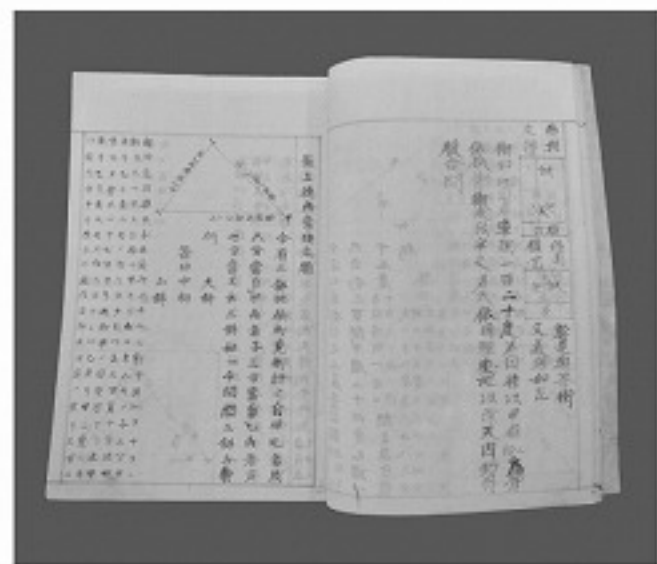
会田安明 遺品

- 机 ●そろばん ●硯

最上徳内の算学

- 「阿蘭陀算法」
(最上徳内考えた問題が載っている和算書)

…他、絵図やパネルの展示



「阿蘭陀算法」(山形大学附属図書館蔵)